

里山昆虫に対する樹液をモデルとした処方の誘引効果

○香川理威・兼松真・杉山隆史・杉浦正昭(フマキラー(株))
金本敦志・崎野隆一郎(株式会社モビリティランド)

これまで長い間、里山では豊かな生態系が維持されてきたが、近年では急速に変質し、特に雑木林が減少しつつある。本研究では、雑木林のクヌギ等の樹液を餌とする昆虫の保護、つまり栄養供給を目的として、樹液をモデルとした昆虫栄養供給源である「人工樹液」を開発している。今回は、実地フィールドにおいて、里山昆虫に対する「ニオイによる誘引性」を、ペットボトルトラップ法により確認したので報告する。樹液にはニオイの成分であるアルコール類、カルボン酸や、エネルギー源となる糖類、各種アミノ酸が含まれていることが報告されている(Ômura et al., 2003)。また、昆虫の必須栄養素としては他にビタミン類、ミネラル類が知られている。これらの成分を候補とし、その誘引個体数を比較することにより成分の必要性と配合量を決定し、人工樹液の誘引性を高めた。その結果、従来から樹液に集まることが知られているチョウ目、甲虫目、ハチ目、ハエ目、ゴキブリ目に属する昆虫を誘引することができた。